銀漢亭日録

伊藤伊那男

2月22日（木）▼雨続く。先日より娘が、私の目が白濁してきているように思うとて、「砧ゆり眼科医院」の予約を取ってくれる。九時、検診。白内障と。手術を勧められ、病院の紹介状を貰う。久々、祖師ヶ谷大蔵に出て、「オオゼキ」「高橋茶舗」などに寄る。ドトールで一休み。芹のおひたし、島らっきょ、紅鮭の粕漬。到来の屋久島のたんかん旨し！　胆管癌の見舞いに「たんかん」というのが面白いと家族と興じる。

23日（金）▼四月号の同人集、会員集の選句、選評の追い込み。娘の作った切干し大根煮、卯の花佳し。

24日（土）▼四月号投句の選、選評を投函。薬のせいか、やや気怠い一日。

25日（日）▼このところ天気悪し。冷たい雨。彗星集四月号の選句、選評。「銀漢歳時記」の選を投函。これで四月号の仕事全部終了。「第十一回井月忌俳句大会」の選句（応募五〇二句）投函。

26日（月）▼手持ちの仕事を全部終えたので、朝の新幹線で米原。久々、気仙沼から到来の鮪、烏賊、蛸などで手巻寿司。

シュウマイ弁当を完食。東海道線で膳所。膳所城跡を散策。湖城の風情が解る。大津城は痕跡無し。時折の時雨。三井寺に行くと丁度湖に懸かる大きな虹を目撃。左は堅田辺り、右脚は大津のビルの中であることが確実に解る。旅の恩寵！　十七時半、石場の「からっ風」という店に入り、鮒鮓、赤こんにゃくの田楽。瀬田蜆の汁で近江の酒少々。十九時半には「スマイルホテル大津瀬田」。二万歩ほどの散策。

27日（火）▼四時半起床。朝食しっかり。冠雪の比叡がよく見える。京都から見るよりも心持ち低い。京阪「大谷」下車。「逢坂の関跡」。「蟬丸神社」は春の雪。三条に出て「とり市老舗」から知人に千枚漬を送る。十三時前、「たつみ」で海老天、粕汁、ハイリキ。「賀花」にもちょっと寄る。大丸地下で食料品を少し調達して「ホテルハーヴェスト京都鷹峯」へ。温泉に浸り、のんびり。マッサージ機で身体をほぐす。

28日（水）▼朝、温泉、マッサージ。快晴。午後も温泉とマッサージ。体重五十九キロは少し落ち過ぎか。もう少し食べないと。十年ほど前のＮＨＫテレビ「１００分ｄｅ名著」の「古事記」のテキスト再読。『重ね地図で読み解く京都の「魔界」』を再読。作句。終日宿で過ごす。

29日（木）▼朝、温泉。マッサージ。十時過ぎチェックアウト。島津製作所の敷地内の小野篁、紫式部の墓。釘抜地蔵の石像寺、北野天満宮の梅は圧巻。町に出て久々「松葉」のにしん蕎麦。喫茶店「ソワレ」。酒を飲む気が起こらず、早めの新幹線で東京へ。

3月1日（金）▼四日間留守の間の郵便物の整理。数句会の選句、選評。京都で書きなぐったエッセイなど。五月号の原稿三本まとめる。京都で入手の日野菜の糠漬、すぐきの葉などうまい！

2日（土）▼五月号の原稿担当に送る。今月は早い進捗。

3日（日）▼ＮＨＫ俳句の「復活開店！　銀漢亭」秋の野菜の構想。今日は少し気怠く昼寝など。雛祭。娘と孫の作るちらし寿司がうまい！

4日（月）▼朝、「日産厚生会玉川病院」。紹介状を持って眼科の二神先生を訪問。検査の上、白内障はあるが、視力はあるし、まだ様子見でいいのでは？　との診断を受ける。近隣の静嘉堂文庫の岩崎家の墓所・公園を散策。昼、とろろ蕎麦。

5日（火）▼高坂小太郎さんの第二回絵画展の記念誌への選句、祝辞稿などの作業。五回目の抗癌剤服用が終了。京都の漬物でのご飯がしみじみいい。

6日（水）▼数日天気悪し。毎日新聞「俳句てふてふ」のエッセイ。食べ物の季語の解説。「蜆」「桜鯛」の二本書く。この頃、食べ物俳句の依頼多い。秋からの調布の俳句講座も「食物と俳句」。八戸のいちご煮の加薬ごはん。

7日（木）▼「銀漢」四月号の校正作業。昼、とろろ蕎麦。夜、キャベツを茹でて軽く絞り、武田さんのオリーブオイル、薄口醤油、鰹節で和えるサラダ。干物。デコポン（たんかんは終了）。

8日（金）▼夜明けに雪。結婚記念日。半世紀ほど前のこと。杏子に付き添って貰い、ドコモショップ。バッテリーが弱っているので新しいものに（らくらくホン）。料金も見直し。何と三分の一位になりそう。赤飯を買う。夜、佐賀嬉野の湯豆腐。

9日（土）▼牛蒡の料理を一つ試作（素揚げ牛蒡の南蛮漬）。これで「ＮＨＫ俳句」秋の野菜六品が揃う。昼、四谷の「主婦会館プラザエフ」にて「第十一回井月忌俳句大会」。予想より参加者少なく、七十人位か。あと隣の中華料理店にて懇親会。久々の顔を見るのが嬉しい。

10日（日）▼「銀漢本部句会」選句。城跡巡りのまとめなど。「銀漢」五月号の選句に入る。昨夜、帰路の「Ｏｄａｋｙｕ　ＯＸ」の鮪の半額刺身で手巻寿し。納豆、烏賊刺、貝割大葉、胡瓜などを交えて。

11日（月）▼「岩野歯科クリニック」定期検診。昼、焼芋とおはぎ。随分嗜好が変わってきた。夜、海鞘と胡瓜。蒟蒻の刺身。粥、鰹のづけ焼。

12日（火）▼朝、粥、大根おろしとじゃこ、目玉焼、味噌汁。九時前、「順天堂大学病院」。採血、齋浦先生と面談。腫瘍マーカークリアと。薬局の待ち時間が九十分！　新宿「手打蕎麦　渡邊」で納豆蕎麦。冷たい雨。夜、デコポン、バナナ、カレーライス少々。

13日（水）▼快晴。六回目の抗癌剤服用に入る。午後、下北沢の「星野珈琲店」にて「ＮＨＫ俳句」の浦川聡子さんと秋号の原稿の打合せ。久々、プリン食す。夜、トンカツ少々と千切りキャベツ、パイナップル、飛騨赤蕪漬。

14日（木）▼快晴。ポストの横の白木蓮が見事！　大根おろしとジャコ、赤蕪漬、舞茸の味噌汁、粥の朝食。昼、とろろ蕎麦。夜、到来の夏蜜柑とシチュー少々。

15日（金）▼快晴。十三時、毎日新聞社。「俳句てふてふ」の今井竜さんを訪ねる。屋上や新聞社の中を案内して貰う。喫茶店にて今後についての打合わせ。次回分の原稿手渡し。豚汁。

16日（土）▼快晴。通販で取り寄せてみた熊本のキンカンが旨い。

17日（日）▼快晴。数句会の選句。デコポン、夏蜜柑、せとか……と柑橘類が身体に合う。

18日（月）▼十三時、「京王プラザホテル」にて、俳人協会総会、四賞受賞式。久々の方々と挨拶。受賞者の一人の橋本榮治さんとは「塔の会」の同期入会。祝意を述べるのが一番の目的。懇親会には出ないで帰宅。俳人協会の平均年齢七十七・七歳は危機的な数字。

19日（火）▼「りいの」終刊号に檜山哲彦氏の追悼文千字ほどを書く。数句会の選句。七ヶ月ぶり位に自転車に乗ってみる。「銀漢」五月号の選句。

21日（木）▼午前中、三田の専売ビル。「丘の会」運営委員会。昼、とろろ飯。十三時から句会。終わったあと神保町。喫茶店で一休みして十八時半からの「銀漢句会」に出席。半年振りのこと。皆さん歓迎して下さる。あと「秋」という中華料理店にて親睦会。帰宅すると二十三時過ぎ。この時間の帰宅も半年振りか。